

第2 対象地区の特性

1 位置及び区域

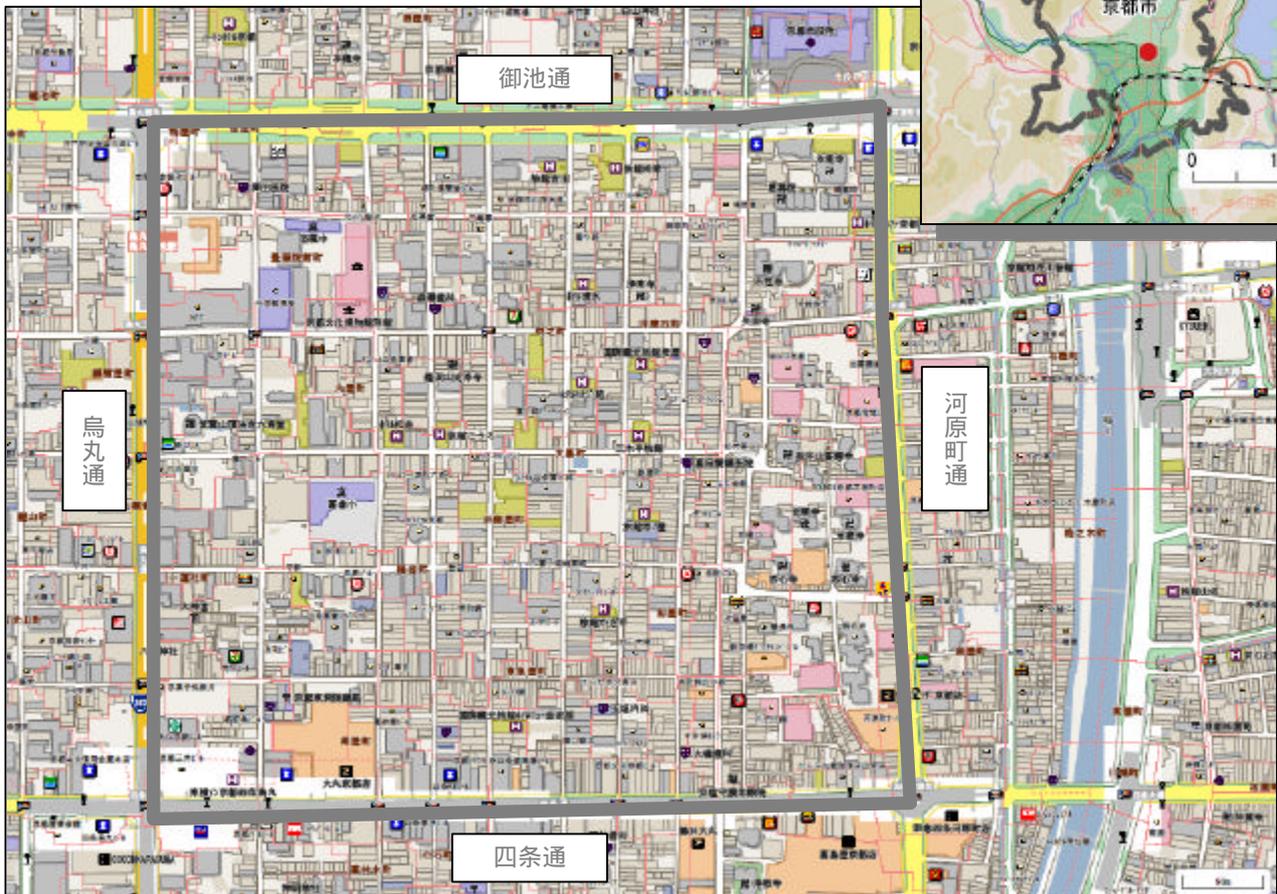
対象地区は、京都市中京区及び下京区の中に位置します。

なお、対象地区は、東西約880m、南北約790mであり、約70haです。

京都市における対象地区の位置



対象地区の区域

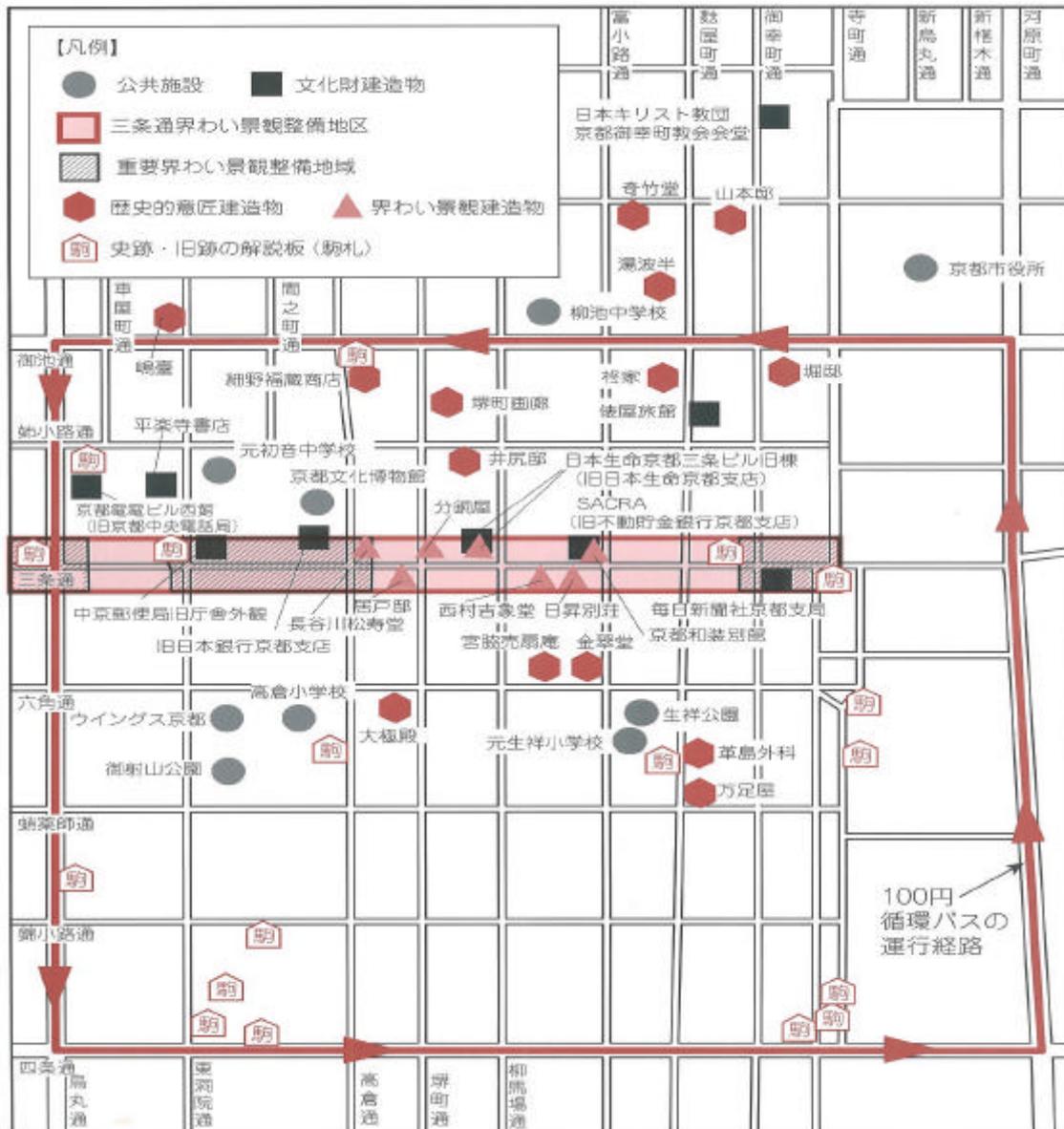


2 歴史・地域資源

対象地区は、京都都心部最大の商業・業務の集積地として発展してきました。個性豊かな商店街、代々伝わる老舗、魅力あふれる個店などが競い合い、まちのにぎわいを高めてきました。一方、姉小路界隈などでは、風格ある町家が立ち並び落ち着いた住環境が形成されています。

まちなかには、永く深みのある歴史・文化に育まれた魅力的な地域資源が多く存在しています。歩いて楽しいまち実現のためには、こうした魅力的な地域資源を大いに活用しない手はありません。

対象地区の地域資源



出典：歩いて暮らせるまちづくり構想（その p21）

3 学区・人口・世帯

(1) 国調人口・世帯数

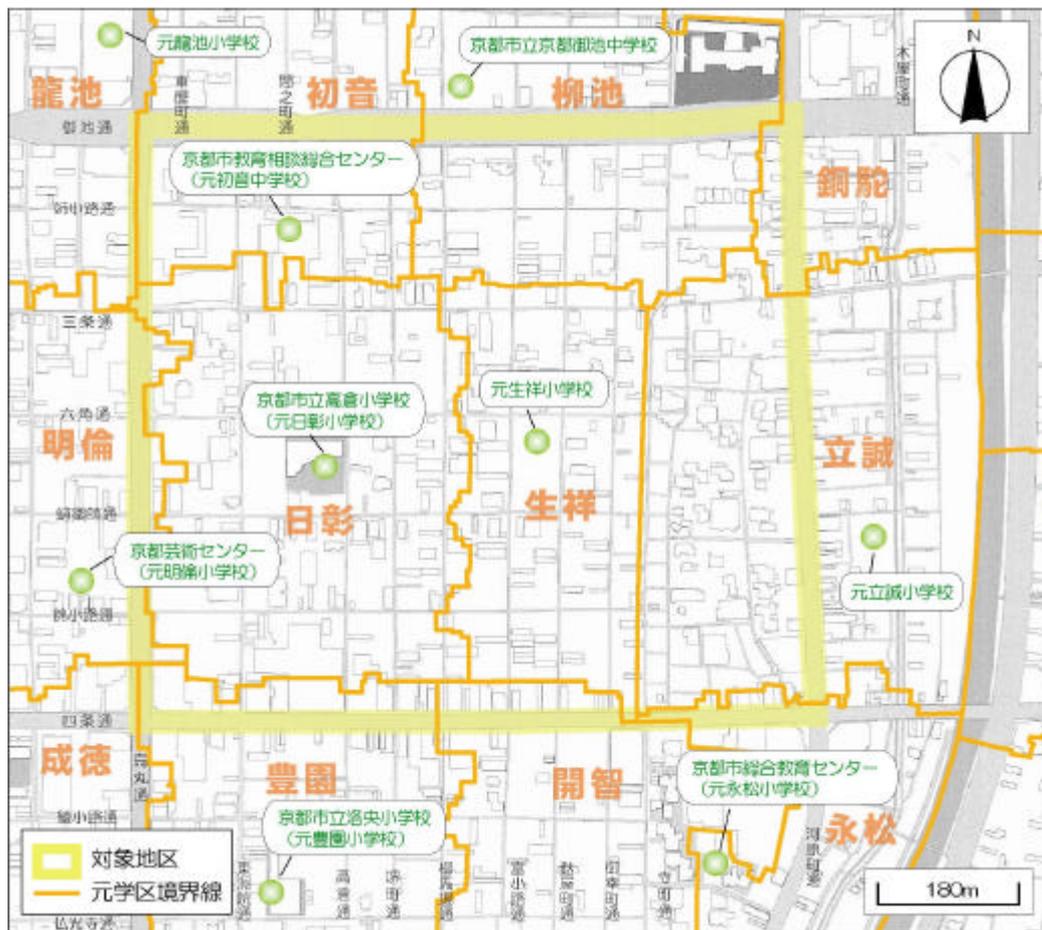
対象地区は，中京区の立誠学区，生祥学区，銅駝学区，柳池学区，初音学区，龍池学区，日彰学区及び明倫学区の8つの学区と下京区の永松学区，開智学区，豊園学区及び成徳学区の4つの学区の全部又は一部です。

概ね中心となる初音学区，柳池学区，生祥学区，日彰学区の4学区毎の世帯数及び人口総数は以下のとおりです。全学区の世帯数・人口総数とも増加傾向にあり，4学区合計の世帯数は，平成7～17年の10年間で67.9%の増加と，大きく増加しています。

また人口総数では，平成7～17年の10年間で38.0%の増加と，大きな増加がみられます。

これらは，本地区内でのマンションの新築などによるものと考えられ，地域の活性化という観点から歓迎すべきことである一方で，従来の美しいまちなみとの調和や活発な住民活動への転入されてきた方々の参加などが課題として生じるものと考えられます。

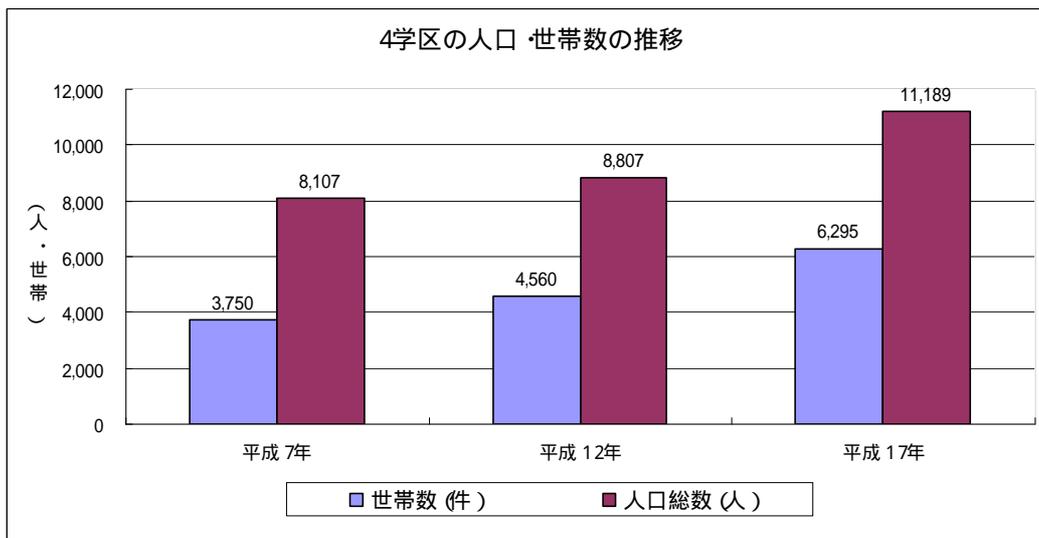
対象地区と元学区の関係



4学区における人口・世帯数の推移

学区	項目	平成 7年	平成 12年	平成 17年	平成 7年～平成 12年		平成 12年～平成 17年		平成 7年～平成 17年	
					増加数	増加率	増加数	増加率	増加数	増加率
初音学区	世帯数 (件)	978	1,175	1,733	197	20.1%	558	47.5%	755	77.2%
	人口総数 (人)	2,021	2,196	2,876	175	8.7%	680	31.0%	855	42.3%
柳池学区	世帯数 (件)	1,088	1,452	1,988	364	33.5%	536	36.9%	900	82.7%
	人口総数 (人)	2,374	2,814	3,781	440	18.5%	967	34.4%	1,407	59.3%
生祥学区	世帯数 (件)	809	923	1,044	114	14.1%	121	13.1%	235	29.0%
	人口総数 (人)	1,812	1,772	1,791	-40	-2.2%	19	1.1%	-21	-1.2%
日彰学区	世帯数 (件)	875	1,010	1,530	135	15.4%	520	51.5%	655	74.9%
	人口総数 (人)	1,900	2,025	2,741	125	6.6%	716	35.4%	841	44.3%
合計	世帯数 (件)	3,750	4,560	6,295	810	21.6%	1,735	38.0%	2,545	67.9%
	人口総数 (人)	8,107	8,807	11,189	700	8.6%	2,382	27.0%	3,082	38.0%

平成 7年, 12年, 17年国勢調査結果から
ただし, 平成 17年数値は要計表による概数



(2) 昼間人口

対象地区は, 中京区及び下京区に位置しています。

両区の昼間人口比率はそれぞれ 165.7%, 193.9% (平成 12 年) と非常に高く, 中心繁華街としての特性を示していますが, 平成 7~12 年の 5 年間で低下しており, 居住志向の高まりが見られます。

中京区及び下京区の昼間・夜間人口について

		平成 7 年	平成 12 年
中京区	夜間人口 (a)	90,803	93,394
	昼間人口 (b)	162,722	154,759
	昼夜間比率 (b / a)	179.2	165.7
下京区	夜間人口 (a)	70,052	70,786
	昼間人口 (b)	144,504	137,257
	昼夜間比率 (b / a)	206.3	193.9